



TITLE:

『座』ノ研究(二)

AUTHOR(S):

三浦, 周行

---

CITATION:

三浦, 周行. 『座』ノ研究(二). 經濟論叢 1916, 3(6): 842-856

ISSUE DATE:

1916-12-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127131>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科大學

# 經濟論叢

第六號

第三卷

大正五年十二月一日發行

## 論說

戰時ノ我輸出品ノ粗製濫造(一)

戸田 海市

最小活資ノ免稅ヲ論ズ(三、完)

神戶 正雄

參觀交代制度ノ經濟觀(一)

本庄 榮治郎

『座』ノ研究(三)

三浦 周行

代表紙幣ト獨立紙幣(三、完)

作田 莊一

## 雜錄

公營造物ニ關スル美濃部(織田松本ニ博士ノ  
所論ヲ讀ミテ東京市電車舊乘車券問題ニ及ブ)(三、完)

福田 德三

戰後ノ經濟戰ニ對スル準備

神戶 正雄

簡易保險更張ノ一方面

財部 靜治

歐洲ニ於ケル工場監督機關ニ就テ(一)

山本 美越乃

人口ト勞銀ノ趨勢

高田 保馬

經濟雜話(六)

田島 錦治

經濟漫錄(三)

瀧本 誠一

金井法學博士在職二十五年祝宴記事

田島 錦治

社會政策學會第十回大會記事

河上 正雄

京都法學會大會記事

## 『座』ノ研究 (二)

### 三 浦 周 行

#### 五

當時商業ノ座ニハ種々ノ因襲的不文律アリ、享祿二年六月七日ノ小幡商人ノ申狀ニ、座之次第又商賈ニ付有古實古法ニ事候トイヘルモノ即チ是ナリ。就中長野郷ノ一日市ハ近江一國ノ親市トスルトコロニシテ、毎年正月十一日開市式ヲ行フノ日ハ座ノ故實ニ依リテ國中ノ御服、相物其他ノ座人等烏帽子素襖ヲ着ケ、松飾ヲナシテ市神ヲ祭ル。然ルニ聯盟以外ノ市ハコレニ與ルヲ得ズ、野々川商人ノ長野郷一日市ノ市神祭ニ於ケルガ如シ。(享祿二年六月七日ノ小幡商人ノ申狀)

商人ハ大抵其營業地域ヲ限定セラレタリ。保内ト小幡トハ保内川ヲ境トシ、愛知川以北ノ市場ニ立ツヲ許サレザル野々川商人ハ又愛知川、中橋市、四十九院市、枝村市、出路市、高宮市、尾生市等ニハ立タズ、是等ノ北市ニ立チ得ルハ沓掛、四十九院、小甲良、高宮、開出、今村等各地ノ商人ヲ始メトシテ小幡、愛知川、枝村等ノ商人ニ限ラレタリシナリ。

當時地方ノ商人ハ當該市座ノモノヲ除クノ外、座ニ屬スルモノモ、然ラザルモノモ大抵行商本位ニシテ貨物ト共ニ市場ヲ逐ウテ轉移スルモノナリシカバ、實際ノ商業ニ從事スルモノハ此種ノ行商ニテアリシナリ。蒲生郡小脇ノ八日市ハ重荷ヲ負ヒテ往來スル粟太ノ商人ノ事ハ源平盛衰記ニ見ユ。是等ノ行商ハコレヲ商賈足子トイヘリ。紙荷之衆ト稱スルモ亦足子ノ一タルベシ。永正元年

十二月十三日出羽守ノ書狀ニ保内筏川以南ニ營業ヲ禁ゼラレタル小幡ノ商人ガ足子ヲシテ押シテ此堺ヲ越エテ營業セシメバ荷物ヲ留置シテ速ニ届出ヅベシトイヘリ。而シテ此足子ヲ市場ニ送リテ營業セシムルニハ年貢錢ヲ納ムルヲ要シタリ。(天文二年十月五日下大森商人二石右衛門大夫以下連署狀) 弘治三年三月ノ御服年貢注文ハ左ノ如シ。

御服年貢事

三百五十文	出衆	蛇溝郷
二百廿四文	二人	今堀郷
百廿五文	一人	破塚郷
三百五十文	同 二人	今在家郷
五十文	かき一連の代	同
百文	二人ぜいまで	中野郷より
		野々宮郷
都合一貫二百文	此内三座之年貢に二百文參候	
百五十文殘候八百文上錢	同柿一連 そは今在家より立申	
弘治三年三月之御服年貢之事	今在家郷	
	小今在家郷	

問屋モ亦或程度迄發達シ居レルガ如シ。大永八年七月十日高保書狀(裏端書ニ横關市次郎殿御一行案、正文者在蛇溝ト見ユ)ニ、石塔寺ヨリ上郷ノ商人ハ下村ニ於テ問屋ヲ定メ賣買ヲナサザルノ先規ナリシニ、横關市田所ニ於テ商買セル爲メ、保内商人ノ抗議ニ遭ヒ、横關村ヨリ其商人

ヲ抑留シテ營業ヲ停止セシメシコト見ユ。然レバ問屋ノ委託販賣ニ任セテ直接營業ヲナシ得ザルモノモアリシナリ。

九月十七日今津泉屋信貞ノ保内商人中ニ宛テタル書狀ニ、八月二十四日訴訟決定セルヲ以テ新右衛門ノ荷物ヲ返還セリトノ事見ユ。此泉屋ハ今津ノ問屋ニシテ、訴訟ノ爲メ一時委託中ノ荷物ヲ留置シタリシモノ、裁判ノ決定ト共ニ解除セラレタルナルベシ。

天文二十二年四月十一日佐々木氏奉行ノ奉書ハ紙問丸宿中ニ宛テタレバ、紙商モ亦問丸即チ問屋ノ存在セルヲ見ルベシ。

保内ハ五日市建部上下莊等ノ市場ニ立ツテ鹽ノ販賣ヲナセリ。天文二十一年二月二十一日今堀惣中ヨリ松村七郎右衛門尉(家次)ニ宛テタル書狀ニ山副掃部介及ビ關三郎五郎ノ兩人ノ鹽宿年貢錢ヲ數年滯納セシヲ以テ取引ヲ停止スルモ、貴所ハ舊ノ如クスベシ(貴所之儀ハ無別儀候之間如先々可當申候)トイヒ、同日松村七郎右衛門尉(家次)同孫七郎(家行)ノ今堀惣中ニ宛テタル請狀ニハ鹽宿年貢錢三百文ニテ請賃ヒ、(カケルトイフ)若シ滯納セバ何時ナリトモ召上ゲラルベシトイヘリ。所謂鹽宿ハ鹽ノ問屋タルナリ。

然ルニ當時ニアリテモ何等制限ナク拘束ナキ一種ノ自由市場アリ、コレヲ樂市樂座<sup>フカイイチャクザ</sup>トイフ。天文十八年十二月十一日佐々木氏奉行ノ下知狀ニ、石寺新市ハ樂市タルヲ以テ、枝村本座ノ座人以外ノ營業ヲ妨ゲザルコトヲ載セタリ。石寺ハ蒲生郡ニシテ觀音寺城ノ麓ニアリ。故ニ六角氏ノ特別保護ヲ受ケテ然リシナラン。是ヨリ先キ應永三十四年十二月十一日ノ源貞定ノ書狀ニ愛知川南宿

領内五日市が往古ヨリ座ナキヲ以テ保内鹽商人ノ任意ニ來ツテ營業スルヲ妨グズトイヘルハ即チ所謂樂座ナリ。伊勢桑名ノ如キハ樂津トイヒテ何レノ國ノ人モ來リテ賣買ヲナスヲ得タリシナリ。

## 六

座ハ一定ノ商品ニ對スル營業ノ特權ヲ有ス。就中、本座ハ他ノ市場ニ赴クニハ商品ノ關津料ヲ免除セラレ、(文龜元年十月五日九里貞秀書狀)美濃紙本座ノ如キハ其座衆ニ對シテ美濃、近江二國ノ專賣權ヲ與ヘラレタリ。故ニ座衆ニアラザルモノニシテ同一ノ營業ヲナスモノヨリ年貢錢ヲ徵收スルコトヲ得、(弘治三年三月沒收年貢注文)彼等ニシテ私ニ商業ヲ營ムニ於テハ貨物ノ沒收(荷留トイフ)等相當ノ制裁ヲ免レズ。守護ガ實慈院領美濃紙本座宿中ニ隱レテ營業セルモノニ向ツテ罪科ニ處スベキヲ令セシガ如シ。(大永三年八月五日佐々木氏奉行下知狀)

寛正四年橫關ト保内ト互ニ御服座ヲ爭ヒ、其共ニ延曆寺(山門)ノ管下ニ屬スルヨリ同寺ノ根本中堂ニ於テ對決ヲナシタルニ、双方共ニ座ノ存在ヲ認メラレ、同年閏六月三日根本中堂ノ閑籠衆ハ保内ノ商人等ニ先規ヲ守リテ營業スベシトノ衆議ヲ傳ヘシコトアリ。然ルニ其後文龜二年保内ト橫關ト復御服座ヲ爭ヒ、島郷ノ市ニ於ケル保内ノ商品ハ橫關ノ爲メニ差押ヘラレシコトアリ。當時守護ニ於テ審理ノ結果、同年八月十日保内ハ院宣ヲ始メ證據書類ヲ有シ、其主張理由アリト認メラレ、御服座在々所々市町商賈事、如「先々」不可「有」相違、若違亂族在「之」者、一段可「處」罪科者也トノ判決ヲ與ヘラル。コレニ據レバ、御服ノ本座タル保内ハ亦他地方ノ市町ニ於テ營業

ヲナスノ自由ヲ得タリシナリ。

市場ハ他村ヨリスル行商人ニ向ツテ津料ヲ課スルアリ、貞和元年三月二十日長野(愛知郡)甲良(犬上郡)平方(坂田郡)ノ市奉行ヨリ得珍保ノ鹽商人ニ向テ其販賣ヲ許スト共ニ、舊ノ如ク毎年二回津料ヲ出ダサシメシモノノ如シ。應安七年六月二日、五日ノ兩回ニ一預及ビ二預ヨリ出ダセル八日市座沙汰用途ノ請取アリ、沙汰用途ハ即チ訴訟費用ニシテ是等モ商人ノ義務ニ屬セリ。

隣接セル町村ノ間ニハ又オノヅカラ其營業地域ノ限定行ハレ、互ニ相侵サザルヲ期セリ。例セバ保内ノ北ニ當レル神崎郡小幡三郷ノ商人ガ保内箕川以南ニ營業スルヲ禁ゼラレ、若シ此堺ヲ越エテ行商スルニ於テハ保内商人ハ其商品(荷物)ヲ留置シテ守護ニ届出ツルヲ得タリシガ如シ。(永正元年十二月十三日出羽守下知狀)

小幡ト保内トノ間ニ行ハレタル應永三十三年營業地域ノ爭ハ是等ノ爭ノ中最モ代表的ノモノナルベシ。同年七月四日小幡商人ノ申狀ニ據ツテ彼等ノ主張ヲ窺フニ、彼等ハ曰ク、小幡保内ノ商人ハ往年御服方代官タル三井西、栗田町人ニ依リテ保内川(現ニ今堀村ニ流ル)ヲ營業地域ノ境堺ト定メラレタリ。此事タル双方共ニ支證ナシト雖ドモ、三十餘年來遵行シテ違フコトナシ。凡ソ二十年ヲ時效トスルハ「公方大法」ナリ。況ンヤ三十餘年ヲ經過セルニ於テヲヤ。去年二月比保内ノ商人堺ヲ越エ愛知川ニ於テ營業セシカバ、小幡ハ其商品ヲ抑留セシニ、保内ヨリ調停者ヲ介シテ歎願セシヨリ、特ニコレヲ返付セリ。然ルニ保内ハ更ニ新儀ヲ企テシヲ以テ、慣例ニ依リ又御服代官杉江西郡ノ裁定ヲ經テ定規ニ任セ營業スベキ下知狀ヲ與ヘラレタリ。保内ハコレニ服セズ保

内川ヨリハ一里餘北ノ愛知川ヲ保内川以南ナリト誣ヒ又保内川以南ニ小幡ノ商人立ツベカラストノ連署狀アリト稱シテ延暦寺ヲ欺キ不法ノ新儀ヲ企テシガ、小幡モ亦古來日吉大宮神人ナリトテ保内ノ主張ノ誤レルヲ一々指摘シテ延暦寺ニ訴フルトコロアリ。其中小幡商人ノ連署狀ハコレヲ認メズト雖ドモ、彼等ガ日野市ニ立タザル理由ハ其保内川以南ノ地タルガ爲メニ堺ヲ守リ先規ヲ糾セル故ナリト辯ジ、又鈴鹿山ニ立タザルハ伊勢國トノ訴訟費用沙汰用途ヲ支辨セザリシガ爲ナリト明白セリ。コハ文應元年三月十五日ノ小幡商人ノ連署狀ニ伊勢ノ商人ト近江ノ商人ト爭ヲ生ジ、訴訟ノ結果近江ノ勝訴ニ歸セシ後小幡商人ニ配當セラレタル百五十餘貫文ノ訴訟費用ヲ納附セザル爲メ自後伊勢國ノ營業ヲ禁ゼラレタルヲ指スナリ。而カモコレガ爲メニ彼等ハ保内商人ニ依リテ近江國中ノ商業地域ヲ制限セララル理由ナシトコレヲ反駁セリ。(別ニ文永二年十一月八日平六外一名ノ請文アリテ小幡ノ商人ガ保内以南ニ立ツニ於テハ先例ニ任セテ人ト貨物ト鞍トヲ差押ヘラルベキヲ約セシモノアリ、亦此同時ノモノラシキモ、思フニ後世ノ僞作ナルベシ。)

斯クテ保内ト小幡トノ營業地域(商賣立場)ニ關シ守護ノ使節ノ前ニ對決スルコトナリ、使節ヨリ其出廷ヲ通知セシモ、小幡方(原文小幡扶佐之方ニ作ル)言ヲ左右ニシテ至ラズ、不法ノ訴ニ及ビシコト明ラカナルヲ以テ、應永三十四年十二月二十三日保内方タル延暦寺學頭代ハ寺官ヲシテ其意ヲ使節ニ致サシメ、保内ノ兩沙汰人ニ向ツテハ保内商人ハ舊ノ如ク商業ヲ營ムベク、小幡ニシテ尙ホコレヲ妨グルニ於テハ將軍ニ向ツテ裁決ヲ仰グベキモ、保内モ亦勝ニ乘ジテ小幡ノ商人ヲ逆待スルガ如キコトナキ様商人ヲ戒飭センコトヲ以テシタリキ。



## 七

中世ニ於テハ諸國水陸到ル處ニ關津アリ、行人ヲ誰何シ、貨物ヲ抑留シテ強制的ニ關津料ヲ徵收シタリシガ、特ニ戰國時代ニハ領地ノ關係益複雑ヲ極メ、大小ノ領主犬牙錯綜シテ各或地域ヲ占有シタレバ、往ク處トシテ是等ノ障礙物ノ横ハラザルハナク、交通ノ不便殆ド言語ニ絶セリ。故ニ商人ハ朝廷・幕府・守護・其他ノ領主等ニ請ウテ關津料免除ノ過所ヲ得、其誅求ヲ免レンコトヲ務メタリ。サレド往々關津ノ爲メニ不法ナル壓迫ニ會ウテ貨物ヲ抑留セラレ、若シクハ關津料ヲ強取セラルコトアルヲ免レズ。例セバ文明五年蒲生郡大塚ガ守護ノ命ニ背イテ保内鹽商人ヨリ鹽荷駄別錢ヲ強取セルガ如キ、(文明五年三月十五日貞隆書狀) 又文龜二年高島郡南市庭ガ保内商人(鹽商人ナラシ)ノ若狹ニ赴クヲ遮リ、先例ヲ無視シテ其貨物ヲ差押ヘタルガ如キ、(文龜二年九月二日九里貞秀書狀)是ナリ。故ニ此クノ如キ場合ニハ彼等ハ聯合シテ其解除ヲ求メンガ爲メ愁訴ニ次グニ歎願ヲ以テシ、一タビ其目的ヲ達スレバ即チ贈遺ヲナシ其經費ハ彼等ノ間ニ分擔スルヲ例トセリ。

享祿二年小幡薩摩(愛知郡)八阪(犬上郡)田中郷(東淺井郡)及ビ南市場(高島郡)ノ五箇ヨリ保内商人ガ今津九里半街道ヲ通行スルコトニ向ツテ抗議セシカバ、守護ニ於テ紕明ノ結果、從來滯リナク通行シ來リシ確證ヲ認メシヲ以テ、同年七月三日佐々木氏家臣ノ奉書ヲ以テ往復故ノ如クナラシメラレタリ。然ルニ五箇ノ商人ハ此處分ニ服セズ、更ニ若狹國小濱ノ代官ト結託シテ保内商人ノ出入ヲ妨ゲタリ。守護コレヲ以テ「言語道斷次第」ナリトシ同年十一月十日、五萬疋ノ過料ヲ五箇ノ商人ニ課セリ。九里半街道ニツイテハ古來數回重大ナル訴訟ヲ生ゼシガコレニ關スル經

費(樽錢、禮物或商賈仁付候て出錢禮物等)ハ南北五箇南市庭ノ商人ニ分擔セシメシモ野々川商人ハ曾テ關與セザリシナリ。(享祿二年ノモノト認ムベキ小幡其他五箇商人ヨリノ申狀)コレニ依ツテ今津九里半街道ガ主トシテ小濱トノ通商ニ利用セラレタリシヲ知ルナリ。此名稱今ハ傳ハラズト雖ドモ、近江國海津ヨリ越前國敦賀ニ往來スベキ道路ニ當リテ七里半越ノ名アルガ如ク、今津ヨリ小濱ニ越ユベキ道路ハ其距離ノ上ヨリ江戸時代迄九里半街道ト呼バレ居タリシナリ。

永祿元年此九里半街道ノ通行ニ關シテ小幡及ビ高島南市、同南五箇、今津ノ馬借、同北五箇ノ商人ト野々川商人トノ間ニ爭ヲ生ジタリシガ、前者ノ主張ニ據レバ、彼等ニ於テ此道ヲ通過スルコト其隱レナキニ拘ラズ、野々川衆ノ此道ヲ經テ若狹ニ通商セントスルハ新儀ナリ、五箇ノ聯盟内ト雖ドモ、其子孫ノミ此通行ヲ得、由緒ナキモノハ通行セズ、五箇所屬ノ行商人即チ足子トシテ所在ニ散在スルモノモ由緒ノ如何ニ依ル、然ルニ野々川衆ハ何等ノ證據ヲ帶スルヤ、昔ハ院宣若シクハ山門ノ下知狀ヲ以テ商業ヲ營ミシモノアリシモ、今ハ然ラズトテ、暗ニ野々川ノ有スル是等ノ書類ノ證トナスニ足ラザルヲ喝破シ。九里半路ニツイテハ古來數回重大ナル訴訟ヲ提起シ、コレニ要セル經費(樽錢、禮物、出錢禮物)モスベテ南北五箇、南市ノ商人ニ於テ負擔シ、野々川ノ商人ハ與リ知ラザリシヲ指摘セリ。

次ニ伊勢路ノ通行ニツイテハ永祿元年小幡、野々川間ニ爭ヲ生ジタリシ時ノ一件書類ニ據ルニ石塔ハ野々川・小幡・沓掛ヲ四本ト號シ、八風・千草越ノ兩道ニ依リテ伊勢ニ赴キ商業ヲ營ムノ特許ヲ得タリシモ、薩摩・八坂・田中江等ノ商人ハコレヲ得ザリシナリ。

交通ノ不便ハ國ヲ異ニスルニ依リテ一層太甚シキモノアリ。弘治二年三月十九日良秀ノ藤田新左衛門ニ宛テタル書狀ニ據レバ、新左衛門ハ小濱ノ奉行ナリシカト思バルルガ、近江ヨリ際限ナク鹽ヲ仕入ニ來ルコトニ向ツテ抗議スルトコロアリシカバ、良秀ハコレヲ諒トシ、良秀家中ノモノ(所謂四本即チ四所ノ市場ナルベシ)ニ限リテハ通商ヲ許スコトニ同意セシメ、良秀ノ折紙ヲ帶セルモノハ從前ノ如ク通行セシメ、魚ノ如キモ、已ムヲ得ザル場合ハコレヲ齎スヲ妨ゲズ、唯良秀ノ家臣ニモアラズ、又其折紙モナクシテ往來スルヲ禁ゼシメタリ。

當時道路獨占ノ關係上、問屋ノ所在地ニ赴イテ商品ヲ仕入ルルコトヲ拒絕セラルルモノニアリテハ勢ヒ他ノ特權ヲ有スルモノヨリ、買取ルノ外ナシ。享祿二年ノモノト認メラルル小幡其他五箇ノ商人ノ申狀ニ據レバ、野々川ノ商人ハ若狹(小濱ヲ斥スナルベシ)ニ赴クコト能ハザル爲メ小幡、薩摩ノ商人ヨリ相物ヲ買取リテ市場ニ賣リ來リシモ、愛知川以北ニハ赴カザルヲ例トセリ。

次ニハ枝村ノ紙商人(紙荷之衆)ガ伊勢路ヲ通行スルニ對シテ保内商人ノ抗議ナリ。兩者ノ爭ハ永祿元年ヨリ繼續スル係爭ナリシガ如ク、彼等ハ互ニ證據書類ヲ提出シテ守護ノ裁決ヲ仰ギタリ。

其中ノ一ナルベシ、四月二十日南又左衛門尉元滿ノ保内商人惣分ニ宛テタル書狀ニハ枝村紙商人ガ伊勢路ニ通行セルコトナキ證明トシテ、先年枝村ノ紙商人ガゆつりほうニ於テ保内ノ爲メニ荷物ヲ抑留セラレシ時六個所ノ關役人ノ調停ヲ請ヒ荷物返還ノ目的ヲ達セシコトヲ舉ゲタリ。

伊勢ハ古來近江ヨリ麻緒・伊勢布・紙・木綿・土物・鹽・絹物・油草・若布・鳥類・魚類・海苔・荒布ノ入國ヲ禁ジ、コレヲ犯スモノハ見當リ次第、何時タリトモ沒收スルヲ例トシタリシガ、保内商人ハ三

重郡ノ後藤氏ニ對シテ年二回公用錢ヲ納メシ外、員辨郡役トシテ三月二十日ニ二貫文及ビ十二月二十日ニ二貫文都合四貫文ヲ坂井ニ交付シ、朝明郡役トシテ三月二十日三百二十文ヲ杉谷常心ニ交付シ伊勢ニ入リテ保内紙ヲ賣買スルノ特許ヲ得ツツアリシナリ。(永祿元年十一月十七日保内商人申狀)

長祿二年ノ事ナリキ、得珍保ノ商人伊勢ニ赴キシニ、大泉ノ住民故ナク其商品ヲ掠奪シ、近江ニ於テモ伊勢國商人ノ貨物ヲ沒收シテコレニ報イシカバ、伊勢國ハ前ノ商品ヲ返シテ事済トナレリ。然ルニ蒲生方ハ保内人民ヲ闕所ニ處セントスルノ說アリ、山門本院東谷ノ集會ニ於テハ得珍保ガ日吉十禪師彼岸料所山上講演用脚タル關係ヨリ此處分ノ祈禱ノ妨トナランコトヲ憂ヘ、蒲生方ニ向ツテ其處分ノ停止ヲ迫リ、若シ肯カザレバ大訴ニ及ブベキヲ以テコレヲ脅カセリ。(長祿二年二月十九日山門本院東谷衆議引付)

然ルニ永祿元年美濃紙ノ本座タル枝村ハ伊勢路ノ往來ニツイテ保内ト爭ヲ生ゼリ。枝村ハ曰ク、桑名ハ十樂津ニシテ美濃ノ商人ノ問屋三戸アレバ枝村ノ商人ハソレニ赴キテ紙ヲ買取ルヲ例トセルモ、美濃ノ商人ノ齎ラセル紙少クシテ枝村商人ノ需用ヲ充タスニ足ラザルカ若シクハ美濃商人途ニ遮ラレテ桑名ニ來ラザルコトアル場合ハ桑名ニ買置ケル紙ヲ買取リテ歸國スルヲ例トセリ。保内側ヨリハ美濃稻庭山ノ敵襲ヲ受ケテ美濃街道ノ往來ヲ絶ツニ當リテ枝村商人兩名保内ニ書ヲ致シ、二十日ヲ限リテ伊勢道ヲ借リタリトイフモ、ソハ虛偽ナリ。斯ル事件ノ發生セル場合ハ枝村ノ古法トシテ衆議ヲ經、連署ヲ以テ履行スベキニ、郷内ノ故老モ全ク此事アリシヲ記憶スルモノナキナリ。若シ美濃ノ亂ニ遭ウテ本街道塞ルニ於テハ越前溫見越ヲ取ルカ、然ラズンバ伊勢桑

名・尾張大島・美濃土岐・近江小谷・小島口等荷クモ紙ヲ出ストコロニ赴キテ買取ルコトナルヲ保内ガ新ニ紙商ヲナスヲ主張シ、剩ヘ枝村商人ノ營業ヲ妨害スルハ其意ヲ得ズト、(永祿元年九月二十六日枝村惣申狀)コレニ對シテ保内ハ枝村商人ガ桑名ニ問屋ヲ有シテ商品ヲ取扱フハ妨ナキモ、專ラ保内ノ專賣タル紙ヲ盜賣スルヲ遮ルノミ。(永祿元年十二月一日保内商人申狀)保内ヨリ古來紙ノ卸賣ヲナスハ愛知川・枝村・沓懸・横關・東川・日野牧・田中井・篠原・守山・永原・高島・坂本・甲賀・伊賀ニシテ、枝村モ亦其中ニアリト主張セリ。(永祿六年十二月十一日保内商人申狀)

永祿三年九月十六日守護ハコレニ向ツテ裁決ヲ與ヘタリ。コレニ據レバ、枝村ノ主張ハ「新儀」ニシテ理由ナシトナシ、自後紙商人ノ伊勢路ヲ通行スルモノアル場合ハ從來ノ如ク荷物ヲ差押フベシトイヘリ。(永祿三年九月十六日守護下知狀)

其他美濃國大矢田紙荷商人ノ上洛ニ當リ途上近江ノ諸國ニ於テ通行ヲ妨ゲラレ、營業ヲ中止スルノ已ムヲ得ザルニ至リシカバ、應仁三年其本所タル寶慈院雜掌ヨリコレヲ幕府ニ訴ヘ、幕府ハ更ニ守護ニ移牒シテ路次ノ煩ナク國中ヲ往復セシメンコトヲ令セリ。

商人ノ交通解除ノ目的ヲ達スルニハ平和ノ手段ニ依ルベキコト勿論ナガラ、時トシテハ暴力ニ訴ヘシコトモナキニアラザリキ。永正九年ニ南北五箇ガ上坂宗左衛門尉・桂田彌七郎ノ近江高島郡ヨリ越前國敦賀津ニ出ヅルトコロノ追分ニ新關ヲ立テシヲ火ヲ放ツテコレヲ燒キシガ如キ是ナリ。

今道路ノ閉塞ニ對シテ商人ガ如何ニ損害ヲ被リツ、アリシカハ次ノ文書コレヲ證シテ餘リア

ラン。

條々 南北五个出錢之事

一大裏爲ニ御料所ニ昔朽木殿ヨリ法坂江新關雖御立候カ商人衆歎申御弃破候、御樽御禮物等南北五ヶ南市致ニ支配ニ候、更自餘族不レ存事、

一能州ヨリ法坂仁新關を雖ニ御立候、歎申御弃破候、御樽御禮物支配同前之事、

一大裏爲ニ御料所ニ粟屋殿大杉仁新關を被レ立候、朽木殿御内人飯田新兵衛尉馳走候て弃破候、御樽御禮物支配同前之事、

一横山殿より法坂仁新關を被レ立候、同歎申御弃破候、御樽御禮物支配同前之事、

一去明應七年仁越中殿より田子新兵衛爲ニ御代官ニ法坂仁新關を御立候、然處田子野州馳走候て御弃破候、御樽御禮物支配同前之事、

一去永正九年仁上坂宗左衛門尉桂田彌七郎爲ニ兩人ニ於ニ追分ニ新關を被レ立候、及ニ武篇ニ關屋を放火仕候、其後饗庭大炊助口入候て馬太刀并方々の禮物三十六貫にて相果新關を弃破候、支配同前之事、(中略)

己上

六月七日

ハ

當時社會ノ秩序紊亂シ戰亂屢起リテ生命財産ノ危險サハ頻發セシ程ナレバ、商業ノ保障ヲ求ム

ルノ困難ナリシコト言フ迄モアラズ。當業者ノ苦心ハ蓋シ意想ノ外ニアリシナラン。是ニ於テ彼等ハ綸旨、院宣等ヲ申下シテ其保障トナセリ。前ニ引キ小幡及ビ五箇ヨリノ申狀ニ院宣若シクハ山門ノ下知狀等ノ効力薄キコトヲ説ケルモ、ソハ商慣習ヲ無視セル場合ニシテ、一般ニハ尙ホ相當ノ効力ヲ有シ、保内諸商人ノ如キハ前掲保元二年十一月十一日ノ院宣等ヲ帶シテ營業ノ安全ヲ保チ居タリシナリ。(享祿二年七月三日佐々木泰行下知狀)

此ニ特ニ注意スベキハ當時自衛上、市相互ノ聯盟ガ或程度迄成立シ居タリシコトコレナリ。貞和元年三月二十日附ノ長野・申良・平方三市奉行ガ連署シテ津料ヲ出セル得珍保ノ鹽商人ニ營業ノ保障ヲ與ヘシモノアルハ三市ノ聯合ト看做スベキモノナリ。而シテ特ニ著シキ實例ハ聯盟以外ノ商人ノ今津九里半街道通行ヲ妨ゲントスル小幡・薩摩・八坂・田中郷・南市庭商人ノ聯合トコレニ對スル石塔・野々川・小幡・沓掛ノ聯合コレナリ。是等ノ五市ハ前ノ三市ノソレト同ジク、郡ヲ異ニセルモアルニ拘ラズ、聯盟セルモノニシテ、五箇ニ對シテ四本ノ總稱ヲサヘ有スルヲ見ル。此聯盟ノ或ル特殊ノ目的(例ヘバ保内商人ノ排斥トイフガ如キ)ニツキテセルヤ將タ一般的ノモノナリヤハコレヲ決スベキ材料ニ乏シト雖ドモ前後ノ場合ヲ對照シテ、必ズシモ一時或目的ノ爲メニセルモノトノミハ解スベカラザルニ似タリ。

商人ハ又守護、領主ノ保護ヲ受ケタリ。然ルニ近江ハ殆ンド山門ノ勢圈内ニアリタレバ此地方ノ商人ハ亦山門ヤ日吉山王ノ保護ノ上ニ營業ノ安全ヲ圖レリ。小幡商人ハ日吉大宮神人タリ。(應永三十三年七月四日申狀) 保内モ亦日吉十禪師彼岸料所山上講演用脚トシテ山門ノ配下ニ屬シ、

應永ノ頃ハ阿沙汰人アリテ、延暦寺學頭代ノ指揮ヲ受ケタリ。(應永三十四年十二月二十三日山門衆議狀) 應永三十五年保内ト小幡トノ争ニ於テ保内ハ延暦寺ノ庇護ヲ受ケントシ先ヅ無動寺ノ同情ヲ得タリシガ如ク、無動寺側ハ屢光聚院ニ會議ノ結果草津代官理性房保内ノ百姓ヲ召換シテ支證ヲ提出セシメ其勝ヲ認メシモ、他ハ其態度鮮明ヲ缺キ、殊ニ東谷ハコレヲ抛棄セリトノ說サヘ傳ハリシカバ、保内ノ名主百姓ハ東谷ノ均シク光聚院ノ會議ニ列シテ保内ノ主張ヲ認メンコトヲ望メリ。(應永三十三年ト覺シキ十一月十九日ノ名主百姓ノ申狀) 保内ハ延暦寺ノ命ト稱シテ小幡ノ商品ヲ途ニ抑留セリ。而シテ應永三十三年十二月十一日ニハ小幡三郷中・下二郷ノ商人等、保内ト小幡トノ争ガ庄田ノ商人ノ不法ニ依ルコトナルヲ以テ下二郷ハコレニ同心シ扶持セズトノ起請文ヲ保内ニ致セルアリ、延暦寺ハ遂ニ守護ト兵ヲ合セテ庄田商人ヲ伐タントスルニ至レリ。(應永三十五年閏三月二日清忠奉書) コレニ對シテ小幡商人ノ對抗手段ハ自衛上最後ノ手段ニ訴ヘントスルニアリ。即チ應永三十三年七月四日、彼等ハ延暦寺ノ保内商人ヲ庇護スルニ對シテ日吉大宮神人トシテノ彼等ガ若シ山上(延暦寺)ノ扶助ヲ受クルコト能ハザルニ於テハミヅカラ神役ニ服スルコトヲ止メテ神人タルコトヲモ辭シ兼ネマジキ態度ヲ示セリ。

又山門以外ノ寺院ニ對シテモ其公用トシテ公事錢ヲ納メ諸公事免除ノ特典ヲ蒙リ、他ノ妨害ニ遭フ時ハ其救済ヲ求ムルコトヲ例トス。而シテ寺院其者モ自家ノ財源ヲ培養スルノ必要ヨリ斡旋最モ力メタリシナリ。應仁三年寶慈院ノ公事料所タル美濃國大矢田郷上洛紙荷商人ガ去々年以來公事物ヲ滞納セルヨリ、調査ノ結果、前記ノ如ク近江國ニ於テ交通ヲ遮斷セラレ、營業不能ニ陷



リシ爲メナリト知レシカバ、寶慈院雜掌ハ幕府ニ訴ヘ將軍ノ御教書ヲ近江國守護佐々木四郎ニ與ヘテ商人往復ノ妨ナク寶慈院ニ對スル義務ヲ完了セシメンコトヲ諸關ニ達セシメタリシヲ見ル。

其他營業ニツイテ市ノ保障ヲ得ルコトアリ。貞和元年三月二十日得珍保鹽商人ガ長野・甲良・平方三市場ノ市奉行ヨリ營業ノ保障ヲ得タリシガ如シ。

由來市ト市トノ間ニハ訴訟紛議ノ發生シ易キ狀態ニアリタルガ、當時其解決方法トシテハ應永三十三年七月四日ノ小幡住人ノ申狀ニ、商人中相論在之時者於御服御代官方對決居仕候事者、先々故實也ト見ユ。コレ御服營業ニ關スル紛議ニツキテ御服代官ノ裁定ヲ仰グノ慣例ナリシヲ示スモノナリ。所謂御服代官ニ二井西・栗田・杉江・西郡アリ。何レモ山門ノ代官ナラン。而シテ原被両造ハ合意上、日ヲ定メテ代官ニ至リ對決ヲナセルナリ。

其他市ヨリ守護ニ救済ヲ求メシ場合ニハ守護ノ使節ノ前ニ於テ原被両造ノ對決ヲナスコトアリ。此場合若シ故ナクシテ出廷セザレバ非ハ召喚不應ニアリトシテ他ノ勝訴ニ歸セシメラレタリ。

## 『座』ノ研究(一)正誤

頁	行	誤	正
六八	一四	永祿 <sup>△△△</sup>	享祿 <sup>△△△</sup>
七二	四	永祿元年	享祿二年
六九	一四	永祿以下六十字ヲ削除シ享祿二年六月七日ニ改ム	